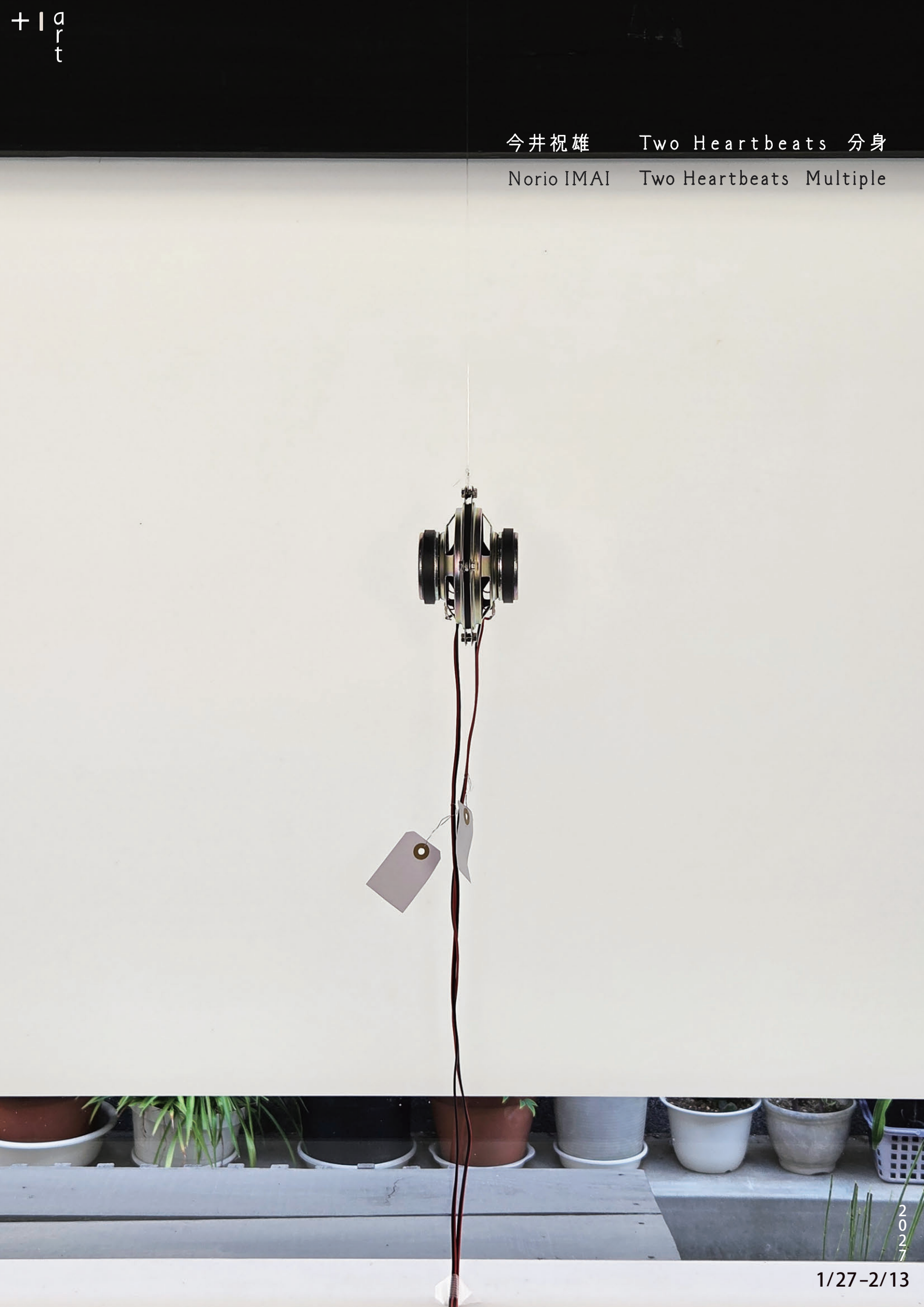
+1 art

今井祝雄　Two Heartbeats 分身

Norio IMAI　Two Heartbeats Multiple



2027

1/27–2/13

今井祝雄　Norio IMAI

Two Heartbeats　分身
Two Heartbeats　Multiple

1/27 水 — 2/13 土

PM 12 – 7（最終日 ～ PM 5）
休廊：日・月・火

音響技術協力：藤本由紀夫



鉢合わせになって吊るされた円い二つのスピーカー・ユニット。一つは1975年、もう一つは翌年に録音した私の心臓音で、二つの音がぶつかり混じりあい、共振・共鳴する。このたび1976年作《Two Heartbeat of Mine》(＊)が半世紀を経て小さなマルチプル作品となった。同じ音源なるも握り拳ほどの“合体スピーカー”はヒトの心臓のサイズにほぼ等しい。

今井祝雄

＊1976: 日本の現代作家―デュシャンを透して…、(シリーズ個展)、ギャラリー・ベテ / 大阪。2019: 日本美術サウンドアーカイヴ―今井祝雄《Two Heartbeats of Mine》1976年、+1art / 大阪。2019: Expo Chicago におけるアクセル・ヴェルヴォールトギャラリーのブース / シカゴ、2023: 今井祝雄の音、アートコートギャラリー / 大阪。2024: 今井祝雄 長い未来をひきつれて、芦屋市立美術博物館 / 兵庫。
もう一つ、やや小振りの《Two Heartbeat of Mine Ⅱ》は1993年、神戸のジーベック・ホワイエにおける MUSIC 展で当初のスピーカーが一時所在不明のため再制作。1997: <私>美術のすすめ ― 何故 WATAKUSHI は描かれたか、板橋区立美術館 / 東京。2025: ライフライン、茨木市立福祉文化会館 / 大阪。

トークイベント

1/30 土　PM 3:00

『音のセルフポートレイト』
今井祝雄 x 藤本由紀夫

会　場：+1art
参加費：¥500　定員：20名
要予約 ▶ gal@plus1art.jp

藤本
去年（1975年/引用者注）と今年（1976年/同上）の心臓音はどちらも自分の音で、音による〈セルフポートレイト〉になっている点が特筆すべきことです。もう一つ重要な点は時間差です。〈セルフポートレイト〉としてなら現在の音だけでいいところを、この作品では、過去の自分と今の自分の音を合体して出している。

今井
《Two Heartbeats of Mine（1976年）のためのポートレイト／私だけの》(1976)は鏡に僕の顔がシルクスクリーンで刷ってあって、僕が目の前に立って片目をつむって見ると、ピタッと合うんですね。当時と今の自分の姿が一致するわけです。また、スピーカーを向かい合わせにしてよく見ると、音の振動でスピーカーは微動していて、臓器のように見えました。だから、展示する時は自分の心臓の高さに吊り下げようと思ったんです。

藤本
心臓という形で、スピーカーが鼓動しているんですね。《Two Heartbeats of Mine》でも、音を聞かせることよりも記録されたとぎが大事なわけですよね。1975年4月18日1976年9月17日の心臓音という、約1年後の出会いがここで生まれている。

今井
《Two Heartbeats of Mine》の2台のスピーカーを合体した姿が、心臓の形に似ているということは、やってみて気づいたことでした。作品というのはやはり、やってみないとわからないというところがあるんですよね。全てが机の上で図面通りにできるわけではなくて、試行錯誤する中で新しい発見があります。

【出典】『今井祝雄 ― 長い未来をひきつれて』芦屋市立美術博物館（水声社 2024）pp.65–67. 内側と外側という感覚／今井祝雄 x 藤本由紀夫［対談］から抜粋

たしか2018年のこと、今井さんのアトリエに伺ったとき「ありました」と言いながら、2つ重なったスピーカーを今井さんが出して見せてくれました。それが1976年の作品《Two Heartbeats of Mine》でした。今井さんの音作品に関心があった私たちは、以前からこの作品のことを話題にしていたので、もう見つからないだろうと思っていた作品が見つかったと知りビックリしたことを憶えています。翌2019年、日本美術サウンドアーカイヴが+1artで開催した今井祝雄展の折、このオリジナル作品を展示しました。そのときはオリジナル音源をそのまま再生し、ノイジーな2つの心臓音がギャラリー空間を揺るがしました。その後、2021年にチェリスト中川裕貴さんとの二人展を+1artで開催し、床に置いたスピーカーの上で「IMAI」と書かれた紙片が、今井さんの心臓の鼓動に合わせて舞う作品《踊る心》(1973)を展示しました。
こうして今井さんの心臓音作品にふれてきた私たちは、これらの作品をもっと多くの人に知ってもらいたいと思い、今井さんと相談して《Two Heartbeat of Mine》のマルチプルを作ることにしました。マルチプルはオリジナルより少し小ぶりですが、音源は藤本由紀夫さんのリミックスによりノイズが取り除かれた音になっています。
本展は、《Two Heartbeat of Mine》のマルチプルとともに、今井祝雄の新作も展示します。なお、マルチプルは20部限定です。ご来廊お待ちしております。

+1art　野口・カワラギ